

令和 5 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立向陽中学校 校長名： 松本 泰幸

目指す学校像・育てたい生徒像

- ・未来を切り開くリーダーとしての資質や能力を身につけた生徒
- ・課題を発見、探求し、主体的に判断し、行動できる資質や能力を身につけた生徒
- ・理数の確かな学力と幅広いコミュニケーション能力を身につけた生徒

学校評価の公表方法

ホームページへの掲載
P T A 役員会等での説明
学校運営協議会での説明・協議

現状・進捗度

A	十分に達成している。 (80%以上)
B	概ね達成している。 (60%以上)
C	あまり十分でない。 (40%以上)
D	不十分である。 (40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（ 3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	教員が授業研究や教材研究等を積極的に行い、生徒の主体的な学習を促す指導が十分に行う。	B	思考力や表現力等を育む授業研究を推進するため年2回実施	教科を超えた指導案検討会の年4回以上の実施	A	各研究授業において、3回ずつ指導案検討を行った。	研修や他校への授業見学など、研鑽を積み、授業改善につとめる。
			生徒一人ひとりの学力や習熟の程度に応じた指導形態や指導方法の工夫・改善	学校評価の「教材や教え方の工夫」等関連項目 40P以上	B	学校評価で32Pと下回ったが今後も改善していく。	
			ICTを活用した思考力向上を目標とした指導展開	研究授業においてICT（1人1台PC）の活用による思考力の育成を提案する。	A	研究授業において、PCを使って、それぞれ発表できた。	
2	教員と生徒の信頼関係の構築と、生活習慣や適切な判断力の育成に関する取組を行う。また、生徒が悩みを相談できる体制を整える。	C	生活の記録に毎日担任がコメントし、声かけによる生徒の情報収集と教員間の情報交換	学校評価の「教師との相談」項目 40P以上	B	学校評価では、26Pと下回ったが、生活の記録のやりとり等、継続できている。	毎日の生活の記録を継続すると共に、1人でも多くの生徒に声をかける。また、SC、SSWとの連携を深め、生徒1人1人を丁寧に指導する。
			携帯電話等の使用について、適切な指導を行う。	携帯電話等の使用状況調査及び情報モラル講座の開催	B	外部講師を招いて、情報モラル教室を開催した。	
			SC、養護教諭との密なる連携、教育相談部会の充実による早期の対応	教育相談部会の年6回以上の開催	A	本年度は、SCやSSWとも連携しながら、部会を開催することができた。	
3	学級経営の充実を図り、教員と生徒の信頼関係及び生徒相互の望ましい人間関係を育てる中で、リーダーを育成する。	B	集団として協力し、達成感を味わえる学校・学年行事の充実	学校評価の「行事の充実」項目 40P以上	A	学校評価では、41Pと目標を達成することができた。	充実した行事の中で、生徒の自主性を育む活動を検討し、取り入れていく。
			誰もが活躍できる場の設定とお互いを認め合う心の醸成	学校評価の「生徒の自主性の尊重」項目 40P以上	B	生徒活躍の場の設定はできつつあるが、学校評価では31Pであり今後改善を要する。	
			ウェルビーイングに基づく授業を行い、自尊感情を高める。	各学年において、2回以上の授業を実施する。	B	全クラス、1回実施でき、自尊感情を高めることができた。	
4	6年間を見通した中高一貫教育課程が全職員のもとで展開し、本校全体の活性化に繋げる。	B	各分掌において、共通認識を図るための体制面での一層の工夫改善	各分掌の会議を年3回以上行い、教育内容・方法等の点検と改善を図る	A	各分掌で会議を持つことができている。一層の改善を図っていきたい。	昨年度から、SSH事業が中高一貫となり連携を深めつつあるため、更に発展させていく。
			各教科指導における6年間を見通した中高間の相互理解の一層の推進	各教科の研究授業の中高相互参観と、研究協議への参加を全員行う	B	相互参観は年間3回以上交流できており更に	
			特別活動において、生徒会等の中高合同企画の実施	中高の生徒が協働し、合同企画を年1回以上行う	B	文化祭について、協働することができた。	

学校関係者評価 (2月20日実施)

- ・学校運営協議会において、学校評価シートをもとに協議した。
- ・生徒の活動に、高い評価をいただいた。
(以下委員の評価)
- ・また、何事にも一生懸命に取り組む生徒が多く、学校の雰囲気も素晴らしい。
- ・学校評価の中で、評価指標に達成できていないものもあるが、そう思う、どちらかというと思うをつけている生徒が8割を超えることもあり、心配ないのではないか。
- ・様々な学校を訪問すると、雰囲気の明るい学校、暗い学校がある。向陽は明るい方である。先生方どのくらいの余裕があるのか。先生と生徒の交流がすくなく、暗くなっていく。
- ・生徒の1人1人の個性をつかむのが中学校では当然。高校では見えなくなってくる。
↓
- ・外部からの評価は、一定高いものであった。これに甘んじることなく、生徒の能力や技術を高められるよう、学習活動や部活動に、生徒と共に精進したい

